

Title	尊經閣本色葉字類抄, 二冊
Sub Title	
Author	幸田, 成友(Koda, Shigetomo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1927
Jtitle	史学 Vol.6, No.1 (1927. 3) ,p.146- 147
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19270300-0146

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文となる。夫れ故に論文は一の精神的な勞作の成果として或る意味に於て哲學自身の働を代表するものと考へられて居る。此處に於て哲學を之れ事とする學派或は團體に於て哲學的思索の發表機關としての論文集成を有つ事は當然否正にあるべき處のものである。

此のあるべき處の論文集成が此度慶應義塾大學の哲學科に屬する三田哲學會に依つて發刊されることになつた。「哲學」はこの論文集成に對して名付けられた名稱である。今簡單に其の第一輯に含まれて居る諸論文の内容を紹介して置く。

一、*Transzendentele Methodik*(川合貞一氏)。カントに依つて基礎付けられた先驗的方法を形式的として、これを更に實質的たらしめんとして現象學的立場から先驗的方法を批評して以てカントの缺點を補ひ、先驗的方法を徹せしめんとするマクス、シエーラーと共に先驗的方法を批評究明したもの、二、「歴史學的勞作と歴史家の個性」(板垣鷹穂氏)は歴史學の性質を其の科學的勞作の具體的な姿のまゝで考察したものである。三、「プラトンの美と藝術とに對する考察」(青木嚴氏)、四、「直接經驗の觀察と觀察態度」(横山松三郎氏)は、心理學構成主義の立場から心的要素の單位を感覺とし、而して此の論理的に構成された概念に過ぎない感覺に心的要素の名稱を與へることの可否、及び感覺的内容が刺戟のフアンクシヨんであり、また屬性が觀察態度のフアンクシヨんであると認めることが誤りでない限り、其の當然の歸結として起る感覺的直接經驗と觀察態度との關係如何を論じたもの、五、「フイヒテの初期に於ける國家思想」(舟田三郎氏)は、初めより完成せる

全體として現はれて居らなかつたフイヒテの國家に關する思想を彼の幾多の論文から研究洞察したものである。

「哲學」は其の目的として廣義に於ける哲學思想の研究及び普及を事とする。徹底的なドグマの排除と、究理を目的とする精神的勞作としての哲學に適ふ爲め内容の粗製濫造を惹起し易い月刊を排して春秋二回の發行として、飽くまで深遠高邁なる思索を流露せしめて、世人と共に哲理に究進せんことを期して居る。

(高橋 文雄)

尊經閣本色葉字類抄

二冊

前田侯爵家の文庫を尊經閣といひ、收藏する所の秘籍奇書甚だ多しと承つて居る。同家と特殊の縁故ある言徳財團では、當主利爲侯の意見を奉じ、閣本中尤も優秀なるものを連續複製する方法を探り、前に元弘本古語拾遺を出版せられたが、引續き今度は色葉字類抄を出版せられた。印刷にコロタイプ版を用ひ、裝訂等に至るまですべて原形を存することを主とせられて居るのは、自分等が隨喜の涙を流す所以である。

色葉字類抄は日本の古き字書の一つで、橋忠兼が天養から治承へかけ、三十年に亘つて補綴したものである。漢字を本文とし、その下に訓又は音を片假名で記し、その最初の假名によつていろは四十七部に分ち、部の内に更に天象・地儀・植物・動物等の二十一門を設けてゐる。假名引と分類體とを兼ねた字書で、主とする所は適當な漢字を求めためであらう。從來寫本でばかり傳はり、

流布本は少いと信ずる。

尊經閣本の色葉字類抄は「可なり實用に供せられたと見え、紙面にはなか／＼手擦や汚損が多い」とあるが、文字を見ると、實に優麗で、たしかに原本の著作と同時代かそれでもなくとも決して遠く隔たらぬ時代の書寫と見え、希世の珍であるが、惜しむらくは完本でない、中巻を缺くのみか、下巻に於ても一部の闕佚がある。従つて賞翫愛撫の點に於ては之で充分であるが、實用に供する場合には不足である。尊經閣には本書の永祿寫本を藏せられて居ると聞けば、本書の不足分を永祿本によつて補はれたなら、書物を愛する者にも讀む者にも雙方に便宜であらうと、望蜀の念を書添へる次第です。(幸田成友)

圖録繪卷物小釋

松岡映丘著

鎌倉時代を中心として、その前後に行はれた繪卷物は、自分等の立場からいつても、大いに尊重に値するものと思ふ。大和繪といふその名が示す通り、畫題を日本にとり、畫面にあらはれる裝飾や調度が、すべて製作當時のものであるからである。是等繪卷物の名稱や筆者や所藏者を録したものには、古く

本朝畫圖品目

源嵩年輯

天保四年刊

がある。之は大坂の惣年寄野里梅園が出版した小冊子で希本である。それから住吉家て出した倭にしきといふ一枚摺も多少參考になるが、一枚摺では明治十七年に出版された

大倭畫名卷鏡

柏木貨一郎著

書評

が頗る賞揚すべきものと思ふ。柏木氏は名高い好事家で、所藏も多かつた。それから博物館で出版した黒川眞頼博士の考古畫譜のことは、周知であるから略す。

松岡氏の著は現在に於ける繪卷物の目錄として、以上の諸書と共に座右に備ふべき良書である。たゞし自分等の希望をいへば、解釋をもつと承はりたく、又挿畫があまりに小さいのを遺憾とする。尤も是等は出版書林が代價を廉くするために起つたことであらうが、之を第一として自分等は松岡氏の第二、第三の著述に接したい。(幸田成友)

新撰洋學年表

大槻如電著

大槻如電先生の「新撰洋學年表」が出版になつたことを、先生のために又學界のために慶賀したい。本書の前版は日本洋學年表と題し、明治十年十一月の出版で、今から四十五年前である。美濃判大の活版本で本文二十三枚、之に例言・序論・題文・正誤各一枚を添へ、紙數合計二十六枚、黄色の表紙をつけて和製本である。今回出版の新撰洋學年表は之と比べると、著しい相違を見る。裝訂は黄表紙が冊表紙にかはつた位であるが、内容は例言一頁・索引十五頁・本文百五十八頁よりなり、例言索引は活版であるが、本文は全部著者の自筆稿本をそのまま金屬版としたもの故、蠅頭の文字ではあるが、先生の筆癖が能く窺はれる。

新舊の兩版を比較して自分等は先生の根氣強きに驚歎し、且これにあやかりたいと思ふ。初版は内國勸業博覽會に出品するため、

(一七)

一四七